

エコアクション21

環境活動レポート

レポート対象期間 令和5年9月～令和6年8月

作成日 令和6年10月7日



第 12 版
(最新版)



三愛建設工業株式会社

目 次

1. 会社の概要 P1
2. 実施体制図 P2
3. 環境方針 P3
4. 環境目標 P4、P5、P6
5. 環境活動計画 P7
6. 環境目標と実績 P8
7. 環境活動の取組結果の評価 P9、P10 及び環境活動状況 P11～P13
8. 環境法規等の遵守状況 P14
9. 代表者による全体の評価と見直し P15

1. 会社の概要

(1) 事業者名及び代表者氏名

事業所名： 三愛建設工業株式会社
代表者氏名： 代表取締役 堀本英夫



(2) 事業所所在地

本社： 〒861-5287 熊本県熊本市西区小島9丁目18番36号

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者 村山 萌
☎ 096-329-3331
E-mail: sanai@helen.ocn.ne.jp

(4) 事業内容

特定建設業 熊本県知事許可 (特ー6) 第8941号
(土木工事業、とび・土工事業、舗装工事業、水道施設工事業)

産業廃棄物収集運搬業 熊本県知事許可 第04301077591号
取扱い品目 (紙くず、木くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類汚泥、廃プラスチック類 (これらのうち石綿含有産業廃棄物であるものを含み、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。))
※自社工事で発生した産業廃棄物のみ取扱い。

(5) 所有車両・重機

バックホウ 0.45m³級×1台 0.25m³級×1台 0.20m³級×2台
(軽油) 0.13m³級×1台

運搬車両 3tダンプ×1台 2tダンプ×1台
(軽油、ガソリン) 軽トラック×1台

営業用車両 軽貨物×9台 普通乗用車×2台
(ガソリン) (内、リース2台)

(上記運搬車両のうち産業廃棄物収集運搬車両2台 産業廃棄物は自社運搬のみ)

(6) 事業規模

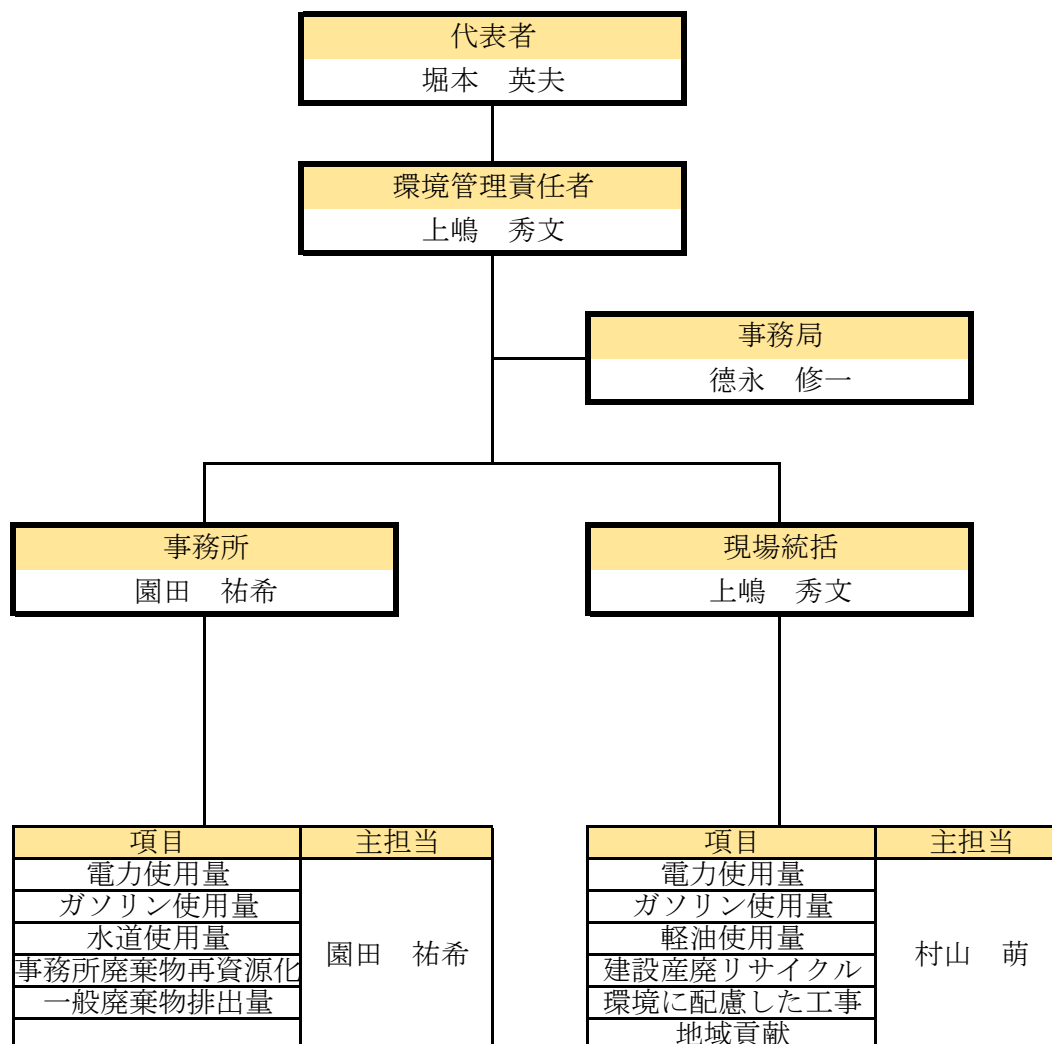
資本金 70 (百万円)
完成工事高 302 (百万円)
創業年 1981年2月28日
事業年度 9月～8月
従業員数 12名



(7) 認証登録範囲

①事業所 本社
②活動 土木工事業、とび・土工事業、舗装工事業、水道施設工事業

2. 実施体制図



環境経営システムの役割と責任

代 表 者	・ 環境方針の制定及び改定、環境目標及び環境活動計画の承認 ・ 環境経営システムの全体の取組状況の評価と全般的見直し(年1回以上) ・ 環境取り組みに必要な資源・人材の確保
環 境 管 理 責 任 者	・ 環境経営システム構築・運用の責任者 ・ 環境経営システムの代表者への報告 ・ 環境目標・環境活動計画の確認、進捗確認と修正の指示 ・ 環境情報の外部への連絡、緊急事態発生時の判断 ・ 問題の是正と予防措置の判断 ・ 環境教育訓練の計画と実行
環 境 管 理 事 務 局	・ 環境管理責任者の代行、環境活動の事業所での推進 ・ 環境目標・環境活動計画の作成 ・ 環境活動計画の進捗の把握 ・ 環境実績データの集計 ・ 環境文書作成発行、環境記録作成管理

3. 環境方針

【 経営理念 】 三愛建設工業㈱ 7つの誓い

- 1) 「おかげさまで」の感謝の気持ちを忘れません
- 2) 最後まで決して手を抜きません
- 3) 常に技術の向上を目指します
- 4) 次につながる仕事をします
- 5) チームワークを大切にします
- 6) 「企業は人なり」の精神で人を育てます
- 7) 仕事やボランティアを通じ社会に貢献します

【 基本理念 】

三愛建設工業株式会社は水と緑豊かなこの地熊本に本社を置き、地域の発展に貢献する会社を目指しています。社会インフラの整備を行う中で貴重な自然を次世代に引き継ぐことを使命と受け止め、会社全体で環境保全に取り組みます。

【 行動計画 】

1. 環境負荷の低減と、環境保全のために次のことに取り組みます。
 - ① 電力・自動車及び重機燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の低減。
 - ② 省資源（水）、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進。
 - ③ 環境に配慮した施工の推進。
 - ④ 地域社会への貢献。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 活動結果をレポートにし、社内外に公表します。
4. 環境方針、活動の目的、内容を全社員に周知し意識付を行い、環境経営の継続的改善を行います。



2012年12月01日 制定

2020年10月31日 改定

三愛建設工業株式会社

代表取締役 堀本英夫

4. 中期環境目標(3年)

事業年度：9月～翌年8月			2018年～	2021年～	2022年～	2023年～	
項 目			単 位	平成30年度	令和3年度～	令和4年度～	令和5年度～
				実績基準	目標基準	目標基準	目標基準
①	CO2排出量		(kg-CO2)	78,706	76,345	75,558	74,770
				基準	対H30年度比-3%	対H30年度比-4%	対H30年度比-5%
②	電力 使用量	事務所	(kWh)	9,028	8,757	8,667	8,577
				基準	対H30年度比-3%	対H30年度比-4%	対H30年度比-5%
	現場	(kWh)	8,418	8,165	8,081	7,997	
			基準	対H30年度比-3%	対H30年度比-4%	対H30年度比-5%	
③	ガソリン使用量		ℓ	7,530	7,304	7,229	7,154
				基準	対H30年度比-3%	対H30年度比-4%	対H30年度比-5%
④	軽油使用量 / 外注工事		実使用量	5年平均510			
			外注金額（百万）	5年平均78			
			ℓ / 百万円	6.57 基準	6.37 対H30年度比-3%	6.31 対H30年度比-4%	6.24 対H30年度比-5%
④	軽油使用量 / 自社施工工事		実使用量	5年平均22,294			
			請負金額（百万）	5年平均241			
			ℓ / 百万円	92.50 基準	89.73 対H30年度比-3%	88.80 対H30年度比-4%	87.88 対H30年度比-5%
⑤	水道使用料		ℓ			42.0	41.6
							対前年比-1%
⑥	産業廃棄物リサイクル率		建設リサイクルのリサイクル率100%				
⑦	一般廃棄物排出量削減		分別活動を積極的・確実に行う				
⑧	環境に配慮した工事		全ての工事において環境に配慮した工事を行う				
⑨	ボランティア活動		年1回				

※CO2排出量＝
 (1：電気kWh) × 0.496 九州電力H30年度調整済み排出係数
 (2：軽油 L) × 2.58kg-CO2/L
 (3、ガソリンL) × 2.32kg-CO2/L
 (4、灯油L) × 2.49kg-CO2/L
 (5、LPGkg) × 3.00-kg-2/kg 1m3=2.07kg

※LPガス、灯油は令和4年8月の本社移転後は使用する機会がないので除外する。(現場で発生した場合はCO2排出量に含めて管理する)

※水道はR4年の本社移転後より使用量を把握できるようになったので新たな管理項目に入れる。

※化石燃料の管理方法について

化石燃料のうちガソリン及び灯油については、受注額に大きく影響を受けないため従来の管理にて対応する。

受注額や工種等 工事の内容に影響を受ける軽油については、大きく2つに分類（自社施工、外注による施工）し、各々の軽油使用量を計上することで、化石燃料消費量を把握する。
下記のとおり過去5箇年の平均により基準値を設定し、管理するものとする。

事業年度		総額		外注		自社	
		受注額(千円)	軽油(ℓ)	受注額(千円)	軽油(ℓ)	受注額(千円)	軽油(ℓ)
H30	H30.9～						
	R1.8	277,303	20,018.18	24,740	87.70	252,563	19,930.48
H29	29.9～						
	30.8	359,978	57,121.90	14,252	40.00	345,726	57,081.90
H28	28.9～						
	29.8	218,479	18,223.94	51,933	129.70	166,546	18,094.24
H27	27.9～						
	28.8	327,330	8,040.23	145,828	1,334.03	181,502	6,706.20
H26	26.9～						
	27.8	410,164	10,614.75	151,395	958.68	258,769	9,656.07
平均		318,651	22,803.80	77,630	510.02	241,021	22,293.78
原単位 (ℓ/百万)				受注額100万あたり使用量(ℓ)		受注額100万あたり使用量(ℓ)	
				6.57		92.50	

新規3か年 環境目標の設定(本社移転に伴う変更)

項 目	内 容	単 位	過去2年の実績			今後3年間の 環境目標設定		
			R4.9～R5.8	R5.9～R6.8	平均	R6年～	R7年～	R8年～
					(基準値)	基準値×-0.1%	基準値×-0.2%	基準値×-0.3%
①	CO2排出量	kg-CO2	69,700	27,030	48,365	47,881	47,398	46,914
②	電気使用量	kWh	9,945	9,365	9,655	9,558	9,462	9,365
	現場		18,818	12,403	15,611	15,454	15,298	15,142
③	ガソリン使用量	ℓ	6,256	6,028	6,142	6,081	6,019	5,958
④	軽油使用量	ℓ	15,851	87,143	51,497			
	売上(税込み)	百万	478.190	332.915	405.553			
	使用量(ℓ)/請負金額×百万	%	0.33	2.62	1.27	1.26	1.24	1.23
⑤	産業廃棄物リサイクル率	%	100	100	100	100	100	100
⑥	一般廃棄物排出量削減	%	(環境活動の実施)	(活動を実施した)	100	100	100	100
⑦	環境に配慮した工事	回	年7回	年5回	工事受注数は全て対象	100	100	100
⑧	ボランティア活動	回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
⑨	水道使用量	m3	41.6	52.0	46.8	46.3	45.9	45.4

※ 軽油使用量は自社施工、外注工事合算とする。灯油については実績が無いので廃止する。

5. 環境活動計画

対象項目	推進責任者	取組内容	時期	回数 (月数)	取組の状況
① CO2の削減	上嶋秀文	②③④⑤⑧の取組	通年	12	○
② 電力使用の削減	園田祐希	昼休み時の消灯	通年	12	○
		不在箇所の消灯	通年	12	○
		こまめに電源をON OFFして管理	通年	12	○
		エアコンの設定温度の遵守（夏季26℃）	夏季	5	△
		〃（冬期23℃）	冬期	4	○
③ ガソリン・軽油 ④	村山萌	「エコドライブ10のすすめ」の取組			
		1. ふんわりアクセル「eスタート」	通年	12	○
		2. 加減速の少ない運転（車間距離を保とう）	通年	12	○
		3. 早めのアクセルオフ（エンジンブレーキの活用）	通年	12	○
		4. エアコンの使用を控えめに	通年	12	△
		5. アイドリングストップ	通年	12	○
		6. 暖気運転は適切に	通年	10	△
		7. 道路交通情報の活用（計画的な走行を）	通年	10	○
		8. タイヤの空気圧をこまめにチェック	通年	12	○
		9. 不要な荷物は積まずに走行	通年	11	○
		10. 駐車場所に注意（違法駐車はやめよう）	通年	12	○
		重機の定期、使用前点検	通年	12	○
		ガソリン燃費管理	通年	12	×
⑤ 水道	園田祐希	こまめに節水する。	通年	12	○
⑥ 産業廃棄物のリサイクル化推進	上嶋秀文	廃棄物の分別の徹底	通年	12	○
		適切な処理委託業者の選定	通年	12	○
		再資源化及び再利用の促進	通年	12	○
⑦ 一般廃棄物	園田祐希	分別の徹底	通年	12	○
		廃棄物の重量実績把握	通年	12	○
		再生処理業者への委託	通年	12	○
		裏紙使用の徹底	通年	12	○
⑧ 環境に配慮した工事	上嶋秀文	排出ガス対策型機械の使用	通年	12	○
		重機等への給油時の飛散防止	通年	12	○
		タバコ・ごみのポイ捨て禁止	通年	12	○
⑨ 地域清掃活動	徳永修一	本社及び現場地域での清掃活動の実施	通年	12	○

◎徹底している ○出来ている △まあまあ出来ている ×出来ていない

6. 環境目標と実績

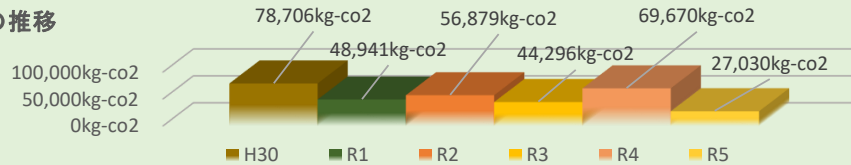
取組み期間： R5(2023)年度＝2023年9月1日～2024年8月31日

項目	内容	単位	目標	実績	達成率 *1 (%)
			R5年9月 ～R6年8月	R5年9月 ～R6年8月	
①	CO2排出量	(kg-CO2)	目標 74,770	実績 27,030	277%
②	電力使用量	(kWh)	目標 8,577	実績 9,365	92%
	現場		目標 7,997	実績 12,403	64%
③	ガソリン使用量	ℓ	目標 7,154	実績 6,028	119%
④	軽油使用量	外注工事	ℓ/百万	6.24	—
	軽油使用量	自社施工工事	ℓ/百万	87.88	2.62
⑤	水道使用量	事務所	ℓ	41.60	52.00
⑥	産業廃棄物 リサイクル率	%	目標 100.0	実績 100.0	100%
⑦	一般廃棄物 排出量削減	kg	目標 環境活動の実施	実績 活動を実施した	100%
⑧	環境に配慮した工事	回	目標 年5回	実績 年5回	100%
⑨	ボランティア活動	回	目標 年1回	実績 年1回	100%

*1 目標達成率：削減目標の場合 $\text{目標} \div \text{実績} \times 100$ (%)
 向上目標の場合 $\text{実績} \div \text{目標} \times 100$ (%)

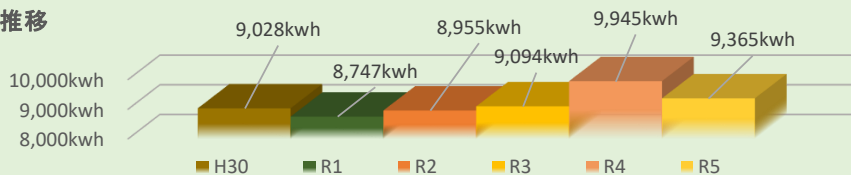
*水道使用量の管理は新店舗移転のR4年からしか実績が無いので、とりあえず前年度実績
 420の-1%を目標とした。(420×0.99=41.590)
 今後は実績の推移を見ながら中期計画をたて、節水活動に取り組む。

CO2排出量の推移



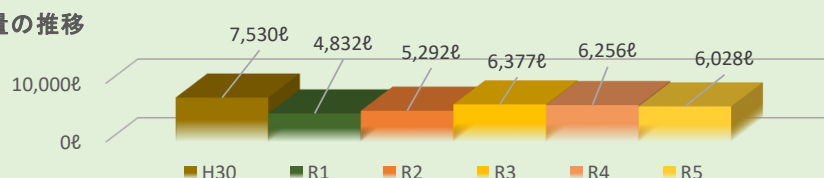
取組項目		評価	次年度の取組内容
①	CO2排出量	○ 昨年に比べ施工工事の軽油使用量が大幅に減少したことがCO2量が減少した大きな要因である。工種により軽油の使用量は異なるので、年度比較での評価はできない。今後もCO2排出量の推移を見ながら管理を継続する。	次年度以降も同様に取組んで行く。

電力使用量の推移



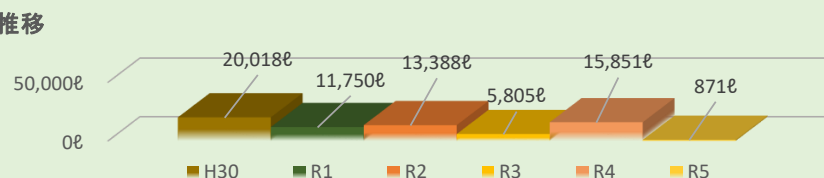
取組項目		評価	次年度の取組内容
②	電力使用量 (事務所+倉庫)	△ 計画に対しては8%使用量が増大したが、当初の計画は移転前の事務所の実績を基準としているため実態と合っていない。来期は現事務所の実績をもとにした計画設定をしたい。前年数値より5.8%削減できたことは評価できる。	全社的に節電に取り組む。

ガソリン使用量の推移



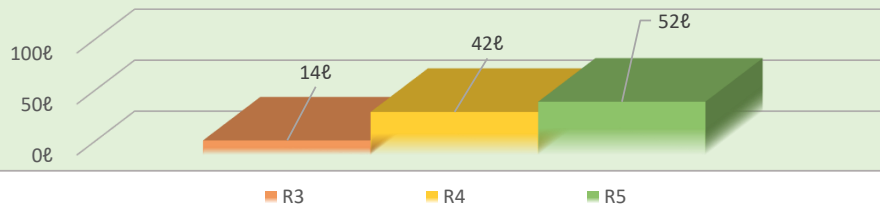
取組項目		評価	次年度の取組内容
③	ガソリン使用量	○ R2年度より現場管理者を直行-直帰制にし無駄な移動時間を無くしたが、社用車で通勤に使用する燃料は増えたため、外見上は増加した。R3年度から少しずつエコドライブを推進しており、今後は個々の車両の燃費管理も含め、活動を徹底していきたい。	・現場管理者を直行、直帰制にして無駄な燃料使用を削減する。 ・エコドライブの徹底

軽油使用量の推移



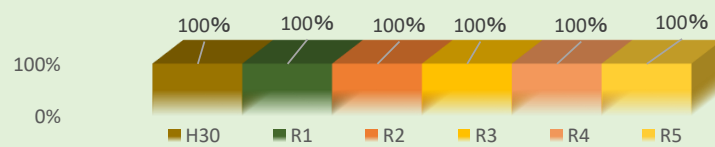
取組項目		評価	次年度の取組内容
④	軽油使用量	○ 今期は軽油使用率が低い工種が多かったため昨年の6%ほどの消費で終わった。原単位による管理でも2.6%ほどにとどまり、計画を大幅に上回る結果となった。	・原単位による比較管理 ・エコドライブの徹底 ・アイドリングストップの徹底

水道使用量の推移



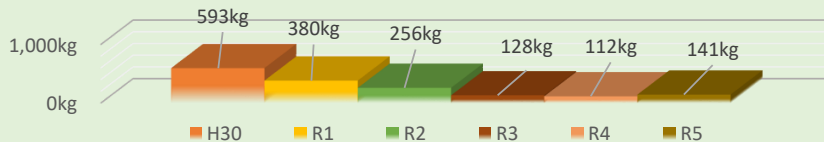
取組項目		評価	次年度の取組内容
⑤	水道使用量 (事務所)	△ R4年8月に本社が移転し、本社の水道管理が可能となったためR4年からは本来の使用量といえる。今後は継続して使用量管理を進めていきたい。	こまめに節水活動を行う

産業廃棄物リサイクル率の推移



取組項目		評価	次年度の取組内容
⑥	産業廃棄物 リサイクル率	○ 工事ごとに中間処理場へ搬入し、リサイクル率100%を達成している。	・現場内再利用の検討

一般廃棄物搬出量の推移



取組項目		評価	次年度の取組内容
⑦	一般廃棄物 (資源ごみ+可燃ごみ)	× 資源ごみも一般ごみもできるだけ排出しないように心がけたが前年比126%と増大した。	引き続きごみの排出量削減に取り組む。

⑧	環境に配慮した工事	○ 前年同様、個々の現場でゴミの細かい分別やアイドリングストップ等の活動が図られており、概ね評価できる。	引き続き環境に配慮した工事に取り組む。
---	-----------	---	---------------------

⑨	地域清掃活動	○ 毎年10月末に実施される熊本市親水緑地公園一斉清掃作業を継続して実施していく	・継続して行っていく
---	--------	---	------------

評価 : ○ 評価できる △ どちらともいえない × 評価できない

環境活動状況

工事現場周辺の地域貢献（ボランティア活動）



現場事務所周辺のガードレールの清掃状況



現場事務所近くの除草作業の様子

地域における活動

地域清掃活動（河川清掃）



第21回 しらかわの日 （令和6年8月4日）河川清掃ボランティアでの活動状況

地域清掃活動（河川清掃）



環境活動状況

社内喚起



節電呼びかけ



節電呼びかけ



節電呼びかけ



節水呼びかけ



節水呼びかけ



節水呼びかけ



エコドライブ呼びかけ



エコドライブ呼びかけ



エコドライブ呼びかけ

環境活動状況

社内喚起



分別回収の呼びかけ



分別回収の呼びかけ



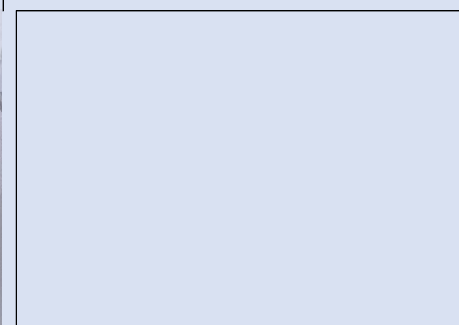
分別回収の呼びかけ



分別回収の呼びかけ



分別回収の呼びかけ



分別回収の呼びかけ



分別回収の呼びかけ



分別回収の呼びかけ



裏紙利用の呼びかけ



裏紙利用の呼びかけ



裏紙利用の呼びかけ

8. 環境関連法規等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は下記のとおりである。

摘要される法規名称	摘要規制事項	適用を受ける内容	順守評価
廃棄物処理法	建設工事廃棄物の適正な処理	一般廃棄物においては分別・減量。 建設廃棄物においては収集運搬業許可証の維持、保管基準の順守、委託契約の締結、マニフェスト伝票の交付・保管	問題なし
建設リサイクル法	廃棄物を現場で分別し、資材ごとに再利用する	対象工事の届け出、土木工事に係る建設副産物の再資源化及び利用促進	問題なし
オフロード法	建設工事に使用する機械による大気汚染防止	排出ガス対策型機械の使用	問題なし
騒音規制法	特定建設作業における騒音の規制	特定建設作業の届け出（杭打機、削岩機、バックホウ、ブルドーザ使用による作業時）	問題なし
振動規制法	特定建設作業における振動の規制	特定建設作業の届け出（杭打機、舗装版破碎機、バックホウ、バイブロハンマ使用による作業時）	問題なし
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵庫	リサイクル料の支払い、廃棄時の適正処理	問題なし
フロン排出抑制法	第1種特定製品（パッケージ型エアコン）（屋外機）	3か月に1回以上の簡易点検	問題なし
自動車リサイクル法	社用車、ダンプ・トラック	リサイクル料の支払い、廃棄時の適正処理	問題なし

環境関連法規への違反、訴訟はありません。また、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘・苦情はありません。

代表者の全体の評価と見直し		三愛建設工業㈱ 代表取締役 堀本英夫
実施日	令和6年9月30日(月) 8:00 ~ 9:00	
場所	本社 会議室	
出席者	社長、環境管理責任者、専務取締役、工事部長、事務局	
使用した資料	エコアクション21文書(ガイドライン等) エコアクション21環境レポート、記録、環境への負荷の自己チェックシート	
評価	C02の排出量については目標を大きく達成することができた。(達成率277%) 要因は自社施工の工事における軽油の使用量が、例年に比べ極端に少なかったことが挙げられるが、こういう工事の特性による実績の変動は本来のエコ活動を通してのものではないので、評価できるものとは考えていない。 C02排出実績はここ数年は50000~60000(kg-C02)で推移してきており平均55000(kg-C02)の数値を少しずつでも削減して行けるよう、エネルギーの使用実績一つ一つを管理し、社員一人一人がC02削減を常に意識して活動することで目標を達成して行きたい。	
見直し	R4年8月に熊本市北区より現在の西区へ本社を移転し、事務所の環境が大きく変わったため事務所内でのエネルギーの種類、使用量に変化が見られた。今期まではH30年に策定した5か年の管理目標に沿って予実管理したが、来期からはR4~5年の新しい環境での実績を基に今後の中期目標を設定し現在の事務所、現在の環境に見合うエコアクション活動を実践していきたい。	
指示事項	本社事務所移転に伴う目標の再設定及び挑戦はもちろんのこと、各現場でも引き続き電気・燃料等のこまめな節約を心掛け、中長期的にC02削減を実践していくこと。 働き方改革も念頭に置き、労働時間についても無駄を無くすよう常に意識して時間外労働時間の短縮に各自目標をもって取り組むこと。	